

平成二十四年

報恩講 宝物特別展観

一月九日より十六日まで毎日午前十時より午後三時まで

ただし九日は正午より 十六日は午後一時まで
津市一身田町 専修寺宝物館にて 入場無料

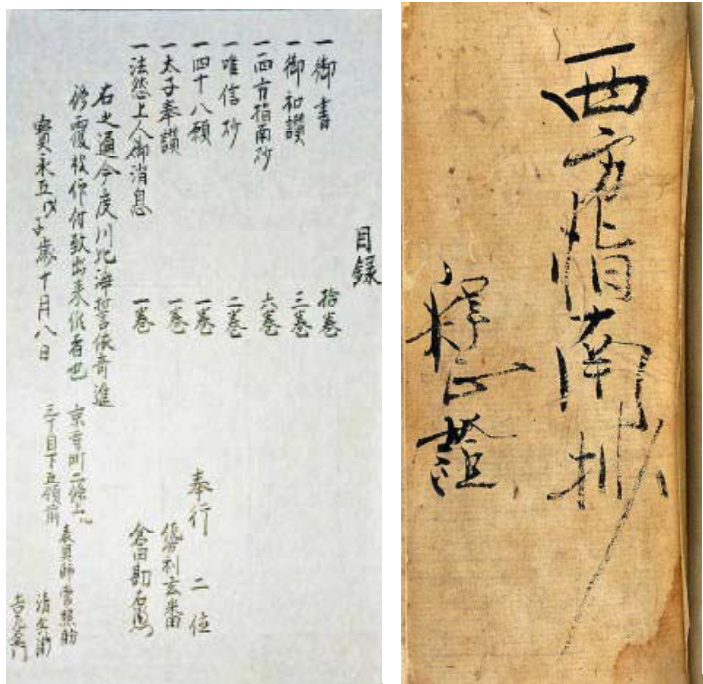
【展示テーマ】 専修寺聖教修復

専修寺聖教は、親鸞聖人の御著作と、真仏・顕智両上人が京都の聖人寓居において書写された本などによって伝えられた、「浄土の文類」の一大叢書です。これらの聖教は過去、幾度となく保存のための修復が施されてきました。

平成二十一年度からは、六十点近い専修寺聖教について、国庫補助による美術工芸品保存修理事業が進められています。これは、十五ヶ年にわたる長期の修復事業にて、現在まで、平成二十一年・二十二年度に四冊の修理が完了したところでは、二十二年度に四冊の修理が完了したところでは、

特に、平成二十三年五月に追加された、国宝本『西方指南抄』六巻の修復では、冊子解体の際に、裏表紙の中から聖人真筆断簡と、江戸期の宝永五年に、聖人四百五十回御遠忌記念として着手された際の修理目録が発見されました。

(国宝本『西方指南抄』より新出の聖人真筆断簡と江戸期修理目録)



親鸞聖人四百五十回御遠忌記念
宝永五年(1708)修理目録

聖人真筆断簡。外題「西方指南抄」、
袖書(授与先の門弟名)「釋正證」

I 平成二十三年度修復、国宝本『西方指南抄』より新出の真筆断簡(影印) 四点

- ① 親鸞聖人筆外題「西方指南抄」(さいほうしなんしょう) (授与先の門弟名)
- ② 親鸞聖人筆袖書「釋正證」(しゃくしょうしょう) (授与先の門弟名)
- ③ 親鸞聖人筆袖書「釋覚信」(しゃくかくしん) (授与先の門弟名)
- ④ 宝永五年(一七〇八年)親鸞聖人四百五十回御遠忌記念修理目録
- II 宝永五年 親鸞聖人四百五十回 御遠忌記念修復の聖教から

- ⑤ 親鸞聖人筆『三帖和讃』(さんじょう わざん) (影印) (国宝、鎌倉中期) 一卷
- ⑥ 親鸞聖人筆『唯信鈔』(ゆいしんしょう) (影印) (重文、鎌倉中期) 一卷
- ⑦ 親鸞聖人筆『唯信鈔文意』(ゆいしんしょう もんい) (正月二十七日日本) (重文、鎌倉中期) 一卷
- ⑧ 親鸞聖人自筆御消息「覚信房あて御返事」(影印) (重文、鎌倉中期) 一卷
- ⑨ 同鸞聖人自筆御消息「高田入道あて御返事」(影印) (重文、鎌倉中期) 一卷
- ⑩ 真仏上人筆『皇太子聖徳奉讃』(こうたいししゅうとくほうざん) (重文、鎌倉中期) 一冊
- ⑪ 親鸞聖人自筆外題・真仏上人書写『法然上人御消息』(重文、鎌倉中期) 一冊
- ⑫ 真仏上人筆『四十八誓願』(しじゅうはちせいがん) (重文、鎌倉中期) 一冊

III 平成二十一年・二十二年度、文化庁美術工芸品保存修理事業から

- ⑬ 真仏上人筆『経釈文聞書』(きょうじやくもん ききがき) (重文、鎌倉中期) 一冊
- ⑭ 顕智上人など筆『見聞』(けんもん) (重文、鎌倉後期) 一冊
- ⑮ 顕智上人筆『聞書』(ききがき) (重文、鎌倉後期) 一冊
- ⑯ 顕智上人筆『抄出』(しょうしゅつ) (重文、鎌倉後期) 一冊

IV 【常設展示】

- ⑰ 親鸞聖人坐像 (県文、南北朝時代) 一躯
- ⑱ 親鸞聖人伝絵第一巻 出家学道の段の段(影印) (重文、鎌倉後期) 一卷
- ⑲ 親鸞聖人伝絵第三巻 越後配流の段(影印) (重文、鎌倉後期) 一卷
- ⑲ 親鸞聖人伝絵第五巻 入滅葬送・廟堂創立の段(影印) (重文、鎌倉後期) 一卷
- ⑳ 真佛上人坐像(栃木・高田本寺蔵 重文影印パネル) (重文、鎌倉後期) 一巻
- ㉑ 顕智上人坐像(栃木・高田本寺蔵 重文影印パネル) (江戸時代) 一軀
- ㉒ 真慧上人坐像(高田派第十世、 本山御対面所仏間安置) (江戸時代) 一軀
- ㉓ 亮秀上人坐像(高田派第十四世、 本山御対面所仏間安置) (江戸時代) 一軀